

ぼうさい通信 Vol. 2



その1

夏にある「海・川の事故」

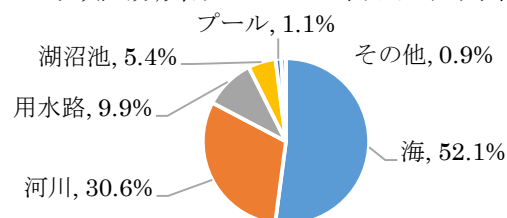
平成 29 年 8 月 16 日発行
熊本県立湧心館高等学校

今年の夏は、体温と同じくらいの気温が続き厳しい暑さになっています。これから、海、山、川など、アウトドアでのレジャーを楽しむ機会が増える季節です。自然に触れるレジャーは楽しみがある半面、自然ならではの危険もあります。事故を防ぐためには自然を甘く見ず、危険をきちんと認識し、計画を立てて行動することが大事です。

☆水難の約半数は死亡事故に！

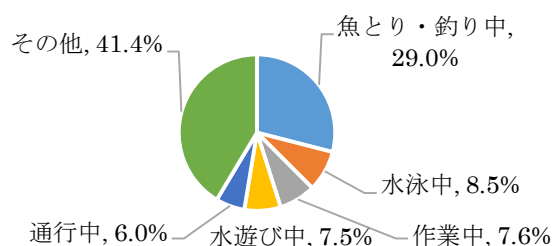
平成 28 年（2016 年）に全国で発生した水難は 1,505 件、水難に遭った人の数は 1,742 人に上っています。そのうちおよそ半数にあたる 816 人が亡くなったり、行方不明となったりしています。過去 10 年間の推移をみると、水難者の数は 1,500 人弱から 1,900 人強の間で推移しており、そのうち死者、行方不明者は毎年、700 人強から 900 人弱の間となっています。いったん事故が起きると、命にかかわる重大事故になる可能性が非常に高いのが、水難の特徴だといえます。水難の死亡・行方不明はどのような場所で発生しているのか、場所別にグラフにしてみました。

H28 水難場所別死亡・行方不明者の割合



☆水難の行為別死者・行方不明者の割合

H28 水難の行為別死者・行方不明の割合



どんな場所で事故が起きているかとみると、上のグラフから「魚とり、釣り」、水泳中などとなっています。こうした水の事故を防ぐためには、海や川などそれぞれの自然環境の特徴を理解し、危険な場所、行為などを知っておくことが重要です。



☆こうして防ごう！川の事故

☆天気や川の変化に注意する。

- ①上流の空に黒い雲が見えたとき ②雷が聞こえたとき ③雨が降り始めた時
④落ち葉や流木、ゴミが流れてきたとき

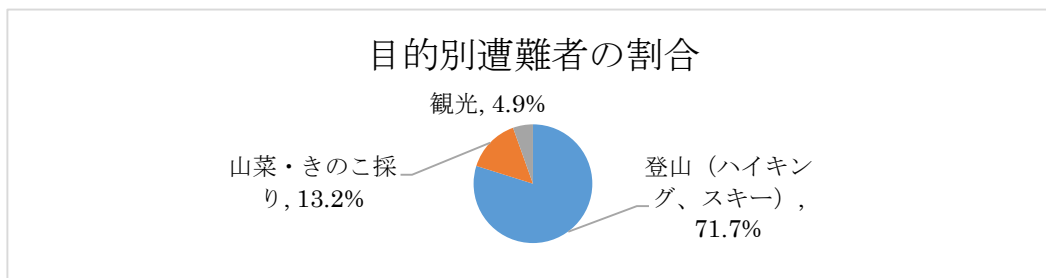
ほかにも、集中豪雨などのために短時間のうちに水位が急上昇して水があふれ出し川沿いの公園や道路にいた人が押し流されたなど事例があります。

※水難防止は国土交通省「河川水難事故防止！川で安全に楽しく遊ぶために」など参考にしてください。

山岳事故！以前増加（遭難者の約5割が60歳以上）

平成28年（2016年）には2,495件の山岳遭難が発生し、計2,929人が遭難しています。そのうち死者・行方不明者は319人でした。発生件数、遭難者は年々増加傾向にあり、10年前と比較すると平成28年は、発生件数は8割近く、遭難者は6割近く増加しています。山に入った目的別に遭難者の割合をみると以下のグラフのようになります。

☆目的別の遭難者の割合



山岳遭難の多くは、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てたり、天候に対して適切な判断ができなかったりするなど、知識、経験、体力の不足などが原因で発生しています。比較的気象条件に恵まれることの多い夏山でも様々な危険があります。低い山でも遭難は発生していますので、単独登山はできるだけ避け、コースの事前調べをして把握しておきましょう。

注意！

弾道ミサイル落下時の行動について

今年4月内閣官房から「弾道ミサイルが落下する可能性がある場合にとるべき行動について」の通知がありましたのでお知らせします。

もし、ミサイルが落ちた時、自宅にいる場合は頑丈な建物や地下があれば避難してください。できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動してください。

また、ミサイル着弾の種類に応じて被害の様相や対応が異なります。テレビ、インターネット等、情報収集に努めて行政からの指示があればそれに従ってください。